資料２

「仙台市　配偶者等からの暴力（ＤＶ）に関する調査」報告（概要）

１　調査の方法

・調査対象　市内に居住する 20 代～70 代の男女計 2,700 人（住民基本台帳より無作為抽出）

・調査方法　調査票郵送による配布・回収

・調査機関　平成 27 年５月８日～５月 28 日

２　回収結果

・有効回収数　938 件（2,700 件中）

・有効回収率　34.7％

３　調査結果の概要

（１）男女の役割に関する意識について

・「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方については、平成 26 年度の仙台市の調査※では、全体で“賛成”（46.6％）が“反対”（40.2％）を上回ったが、今回の調査では“賛成”が 39.4％に対し“反対”が 45.0％で、固定的性別役割分担意識に否定的な考え方の割合が上回った。（問１）

※「仙台市　男女共同参画社会に関する市民意識調査」

・男女別に見ると、女性は“賛成”が 38.6％で、“反対”の 46.2％とは 7.6 ポイントの差が付いた。一方、男性は“賛成”が 41.1％、“反対”が 42.6％と差が小さく、性別役割分担意見が拮抗していることがうかがえる。（問１）

（２）ＤＶに関する法律、相談窓口の認知度について

・ＤＶ防止法の認知度は約９割（89.7％）、配偶者暴力相談支援センターの周知度は 25.0％であった。プランの目標値との比較は下表のとおり。（問２、問３）

項目	前回調査結果（H26）	今回調査結果（H27）	目標値（H27）
ＤＶ防止法の認知度	81.4％	89.7％	100.0％
配偶者暴力相談支援センターの周知度	49.0％	25.0％	50.0％

（３）ＤＶに関する認識について

・暴力に当たる行為について、「どんな場合でも暴力に当たると思う」という認識は、“平手で打ったり、足で蹴ったりする”が約９割（87.0％）であったほか、“「誰のおかげで生活できるんだ」「役立たず」などと言う”（69.4％）、“意に反して性行為を強要する”（68.4％）がいずれも６割を超えた。“相手が社会活動や仕事をすることを嫌がる”（24.9％）、“話しかけても長い間無視する”（29.9％）などは、認識が低くなっている。（問４）

・性別で見ると、身体的暴力については男女の認識に大きな差は見られないが、精神的暴力や経済的暴力、性的暴力については、女性の方が「どんな場合でも暴力に当たると思う」と回答している割合が高くなっている。（問４）

（４）ＤＶを受けた経験について

・結婚経験のある人（734 人）のうち、身体的暴力、精神的暴力、経済的暴力、性的暴力のいずれかの被害を配偶者から受けたことがある人は約３割であった（“何度もあった”（10.6%）と“１、２度あった”（19.2%）の計)。性別で見ると、女性は 34.7%、男性は 19.6%となっている。（問６）

・被害経験のある暴力の種類は、“精神的暴力”が 23.1%、“身体的暴力”が 16.3%、“経済的暴力”が 9.4%、“性的暴力”が 7.8%となっている。（問６）

・過去５年間に配偶者からＤＶを受けたことがある人（122 人〔うち女性 100 人〕）のうち、「どこ（だれ）にも相談しなかった」と回答したのは、女性では４割、男性では約９割に上った。女性が「家族や親せき」(37.0%)、「友人・知人・職場の同僚や上司」(38.0%）などに相談している一方、男性は周囲に相談した人が非常に少ないことが見て取れる。（問８）

・「どこ（だれ）にも相談しなかった理由」については、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」が８割を超え、女性では約半数が「相談するほどのことではないと思ったから」を挙げている。（問８－２）

・被害経験がある人の半数以上が「自身の生活や心身に影響があった」と回答し、その影響としては、約６割が「相手の顔色をうかがうようになった」、約３割が「無気力、またはうつ的になり、何もする気がなくなった」を挙げている。（問９、問９－１）

（５）デートＤＶについて

・デートＤＶの認知度は約５割であった（「言葉も、その内容も知っている」23.8%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」24.8%の計)。(問 12)

・10 歳代～20 歳代に交際相手がいた人（709 人）のうち、デートＤＶの被害を受けたことがある人は、全体では 16.5%であり、性別で見ると女性は 21.1%、男性は 6.0%となっている。(問 14)

・デートＤＶを受けた時の対応については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」との回答が半数を超えている。(問 15)

（６）性暴力について

・異性から無理やり性交された経験がある女性は約１割（「１回あった」4.5%と「２回以上あった」5.9%の計）で、10 人に１人は性暴力の被害経験がある。(問 17)

・被害を受けた時の対応については、「どこ（だれ）にも相談しなかった」との回答が７割以上となっている。その理由としては、半数が「恥ずかしい、世間体が悪いなどと思い、だれにも言えなかったから」を挙げている。(問 18、問 18-２)

（７）被害者支援や防止対策について

・ＤＶ被害者が安心して生活するために必要なことについて、「被害を受けた方が暴力の影響から回復できるような、精神的・心理的支援」(76.1%)、「暴力から逃れるために、緊急に避難できる施設を増やすこと」(75.2%)、「暴力の影響を受けて育った子どものケアなど、子どもに対する支援」(74.0%）がいずれも７割を超えており、幅広い支援が求められている。(問 20)

・男女間の暴力をなくすために必要なこととしては、半数以上が「加害者への処罰を強化したり、更生教育を行うなどの対策を行う」(67.1%)、「被害を早期に発見しやすい警察や医療機関関係者などに対する研修や啓発を強化する」(53.0%)、「男女平等や人権を重視した学校教育を充実させる」(50.7%）を挙げている。(問 21)